

このたびの東北関東大震災において、被害にあわれた皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた皆様に、心よりお悔やみ申し上げます。そして、一日も早い復興をお祈りいたします。



3/27(日)港北小にて 設置した募金箱と救援物資受け箱

かながわクラブでは、このたびの東北関東大震災で被災されたみなさまへの復興支援として、3月27日(日)の港北小での小学生の活動および県立保土ヶ谷公園サッカー場でのPapasメンバー限定で開催されたチャリティイベント「かんばれ東北!Papas Special」において、募金および支援物資募集活動を行いました。ご協力いただいた多くの皆さまには心より感謝を申し上げます。皆さまのご協力のおかげによりまして、支援物資は下着類を中心に段ボール箱5箱分が集まり、これはすでに理事長の内田自らが被災地に赴き、宮城県の塩竈FC経由で周辺サッカークラブへピンポイントで届けられています。また、募金の方は3/31時点で162,290円の義援金が集まっております。募金活動の方は、今後もしばらくの間継続して実施していきますので、引き続きご協力いただけますようお願い申し上げます。

なお、皆さまからお寄せいただいた支援金は、東北サッカー復興支援のために使っていただけのような寄付先を検討のうえ、責任をもって寄付させていただきます。皆さまには、後日、最終募金金額とともにご報告させていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私たちの生活は、少しずつ平常に戻ろうとしてはいますが、計画停電やそれに伴う交通機関の混乱、原発に対する恐怖、物資の不足など、先が見えない不安が残っているのは間違いありません。そのために、大きなストレスを抱え、元気をなくしておられる方も多いことでしょう。そんな状況の中でも、被災地の方々への義援金や物資提供の呼びかけに対し、本当にたくさんの皆様にご賛同をいただきました。自分のお小遣いをコツコツと貯めたものを募金してくれた子供たちもたくさんいます。わざわざ買物に行ってくれた方も大勢います。皆様の善意に心からお礼申し上げます。今回の塩釜への物資搬送は、一人では絶対にできないことでした。一緒に行ってくれる仲間がいたこと。バスを提供してくれたクラブがあったこと。運転手を買って出てくれた人がいること。雑務を手伝ってくれる仲間がいたこと。自分が行かない代わりに、その思いをたくさんいただきました。多くの仲間の善意に支えられ、パワーを得ることができました。私たちには、サッカーやヨガと一緒に楽しむ仲間が大勢います。一人では何もできないけれど、仲間がいればできることがたくさんあります。そんなことを改めて痛感いたしました。搬入後、被害の大きかった地区を慰問して来ました。テレビや写真で見るとは比較にならないほどの衝撃で、何も言葉が出ません。今自分が立っているこの場所を、あの津波が襲ったのかと思うと、簡単に表現のできるようなものではありません。そんな中でも、ボールを蹴っている子供たちや、じゃれあっている中学生たちの姿を見て、少しほっとしました。七ヶ浜のサッカー場では、仮設住宅の建設が始まっていました。今、世界中の人たちが私たちを応援してくれています。困難に立ち向かう仲間になってくれています。仲間がいるって本当に素晴らしいことです。どうか皆様、これからもよろしくお願い申し上げます。(内田 佳彦)

新年度 スタッフ&小学生学年幹事

カテゴリー	担 当	
幼児~小2 統括	浜野	
幼児・小1	近江	
小2	豊田	
小3	益子	
小4	佐藤	
小3・小4(平日)	内田	
小5	鈴木	
小6	小野	
小5・小6(平日)	二木	
Junior Youth	河原/二木	
Youth	田中/鬼塚/内田	
Papas(港北小)	浜野	
Papas(Rec)	Mgr	茅野
	監督	太田
	審判	平澤
Papas(Comp)	中山	
Papas(O-40)	茅野	
Top	田村/河原	
フリー	高田/丸山	

【小学生学年幹事】

※敬称は略させていただきます

カテゴリー	幹 事
幼児・小1	未定
小2	斉藤(滉也)/渡辺
小3	栗山/藤本
小4	重岡/横塚
小5	井原/野田
小6	斉藤/坂井

大会・公式戦結果

Junior Youth

【2010/2011 県 U-15 リーグ 2nd ステージ】

vs 横浜市立原中学校	1-3●
vs 湘南ルベント	0-1●

親子サッカー(6年生/新中1)



6年生は、3月27日に最後の日曜日の活動を行いました。中学受験で休部していたメンバーも復帰し、26名が親子サッカーを楽しみました。4月からは、ジュニアユース、中学校の部活、他のクラブチーム、と進む環境は異なりますが、「これからも仲間を大切にしたい気持ちをお願いします。仲間がいることで勇気を持ってください。この厳しい状況を打開し、将来を築くパワーを持ってください。中学に進んでかながわクラブを離れても、一緒にサッカーをした仲間であることに変わりはありません。みんないつまでも仲間です。10年後の元気な皆さんに会いたいです。一緒に頑張ってください！」の内田理事長のメッセージにあるように、今回の未曾有の災害を機に、生きていること、毎日元気に生活することが出来ることへの感謝を忘れずに、一人もこぼれることなく、大きな目標、夢に向かって常にチャレンジし続けて欲しいと願っています。

ちょうど1年前に福島でJビレッジで合宿を行い、日本代表も使用する最高の環境の中でサッカー生活を満喫しましたが、そのJビレッジが原発事故による放射能汚染でこの先長期使用できなくなる恐れがあるといわれています。対戦したチームの中には今回の地震、津波で甚大な被害を受けた塩竈FCがいました。今なお想像を絶する困難に直面されている被災地の皆さまが、1日も早く安心と平穏を取り戻し、必ずや復興を果たすことを心よりお祈りいたしております。(浜野 正男)

今、グラウンドでは・・・

Top

【4月開幕！！県リーグ】

Top チームは4月から開幕の県リーグに備えて、3月までチーム力強化を目標に取り組んできました。もちろん今回の震災の影響で3月のトレーニングが少なかったことはマイナス材料ですが、田村監督、河原コーチのもと、内容のあるトレーニングができたと思います。特に「前からボールを奪う」「空いているスペースを使う」と言うことに関しては、選手自身で考えられるようになってきたと思います。田村監督はディフェンスと言う言葉は使いません、ディフェンダーであつても待つのではなくボールを奪いに行くということです。待つしまつたり、相手との距離を開けてしまうと、相手に自由にボールを回されてしまうからです。もちろんリスクもありますが、得点をより多く奪うためには必要なことなのです。今年の課題は得点力です、相手に1点奪われても2点とって勝つことです。開幕直前の大事な時期にナイターでのトレーニングができない等様々な制約はありますが、内容の濃いトレーニングと、個人のモチベーションをアップして県リーグ開幕を迎えたいと思います。まだ最終的な県リーグの日程が決まっていますが、決まり次第 HP 等でお知らせします。今年の Top チームにご期待ください。

(中本 洋一)



Youth

日本クラブユース(U-18)サッカー選手権大会関東予選につき、本クラブは次の理由から参加を取りやめました。

1. 本大会の会場である J ヴェルジ(福島県楢葉町・双葉町)は利用再開のめどが立たず、現時点ではどのような形で行われるのか不透明であること。
2. 夜間のグラウンドでの活動再開は早くも 5 月に降になりそうであり、十分な準備をもって試合に臨めそうもないこと。
3. 予選は 4/16(土)～5/3(火)で行われ、気温が急に上昇する時期でありながらもナイターはできず、しかもこの期間に 5 試合行わなければならないこと。
4. 関東全域で行われるため、長距離の移動が予想され、選手に対しての経済的・体力的な負担が高いこと。
5. 計画停電による交通機関の乱れも予想される中では、長距離の移動を選手に課せられないこと。
6. 人数に余裕があるわけではなく、多くの負担を選手に与えることは、今の段階では余りにもリスクが高いと判断せざるを得ないこと。

なお、以降の公式戦は次のとおり予定しています。

■神奈川県クラブユースサッカーリーグ(6月～12月)

■KCYリーグ(7月～8月)(関東リーグ)

■神奈川県 U-18 サッカーリーグ(6月～11月)

平日の夜間の活動については別途お知らせしますが、計画停電や交通機関の運行状況等を考慮して考えます。6月からの公式戦に焦点を合わせ、焦らず、しっかり調整していきましょう。

(内田 佳彦)

Junior Youth

【3年生】

少し遅くなりましたが、3年生のみなさん卒業おめでとうございます。H22年度は3年生が少なく苦勞もあったと思いますが、最後までよくやってくれたと思います。中には、最後まで休まずトレーニングに参加し、2年生以下の試合にも帯同して下級生の面倒をみてくれた選手もいました。それでも高校合格を果たした姿勢は称賛に値すると思います。JYとして「アクション」をテーマにしてきたこの1年間でこういった選手が出てきてくれたのはうれしい限りです。新 2・3

年生はそういった姿勢を近くで見えてきたと思うので、何かを感じて自分なりにアクションを起こしていった欲しいと思います。3年生については、無事に全員の高校進学が決まりましたので、それぞれの進路先でさらなる飛躍を目指して頑張ってください。そして、たまには JY の活動に顔を出してくれたらうれしいです。

【JYの活動】

震災後は、約2週間活動ができずに、予定していた「熱海遠征」も中止となりました。現在も夜間照明施設の利用が停止中で、利用再開についても決まっていない状況です。そのため、当面、火・木曜日の活動は時間や場所が流動的となってしまいます。しばらくの間は、皆さまにご迷惑をおかけすることになってしまいますが、事情をご理解のうえ、ご協力いただけますようお願いいたします。そんな状況下ではありますが、4月末からの「日本クラブユース選手権」の県予選に向けてできる限りの良い準備をしていきましょう。また、中止になった「熱海遠征」の代わりに、5月中旬に1泊2日での遠征も検討しています。(二木 昭)

小 6

【未曾有の】

大災害が発生しました。小生も身内が被災、発生1週間後にやっと連絡が取れ無事は確認できましたが、現在も不自由な生活を送っています。復興への道のりはとても長く険しいと思いますが、個人レベルでも出来ることで貢献していきたい、と考えています。

【よろしく願いいたします！】

新年度からは新小6を担当させていただきます。例年であれば4月から春季大会が始まりますが、今年は5月から形式を変えて開催されます。また、全日本少年サッカー大会も11人制から8人制に変更になるなど変化もありますが、「サッカー」をすることに変わりはありませんのできちんと準備を進めたいと思います。既に子供たちには①元気に挨拶 ②時間を守る ③自分のことは自分で の3点を忘れず日々の活動に取り組んで欲しいことを伝えていますが、保護者の皆様にも是非サポートいただきたくお願いいたします。(小野 津春)

小 5

【年度末】

あつ、という間に年度末になってしまいました。3月は活動・遠征の中止もあり少し残念でしたが、「とにかく一生懸命サッカーをしよう！」と言い続けた今年度でした。春季大会、国際チビツと公式戦も良い経験になったかと思います。新年度・新小5は鈴木コーチの担当になり、平日の活動も二木コーチの担当の下小6と一緒にすることから新たな刺激も感じながら、また、これまで以上に「自分がサッカーが出来ることへの感謝」の気持ちを持って、楽しく取り組んで欲しいと思います。保護者の皆様には、幹事さんをはじめ多々ご協力・サポートをいただきありがとうございました。今後も、これまで以上にもっともっと子供たちのがんばっている姿を見にグラウンドに足を運んでいただきたいと思います。(小野 津春)

昨年度は、小学6年生を担当させていただいておりました鈴木と申します。子供たちが引き続き楽しくサッカーに取り組めるよう、サポートさせていただきたいと思っています。ご家庭におかれましても、今までどおりプレーヤーズ・ファーストの立場から、お子様の自立に向けてフォローしていただきたいと思います。何かお気づきの点や疑問に思ったことがございましたら、お気軽にお問い合わせください。1年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【新小学5年生の君たちへ】

新年度がスタートしました。学校では、新しい先生や友だちとの生活がはじまりますね。今は、期待と不安な気持ちが入り混じっていることと思います。さて、小学5年生チームは、市の新人戦(1月)や区リーグを除けば、来年の4月まで公式戦の予定はありません。つまり、この1年間はじっくりとトレーニングに臨めるわけです。君たちには、対外試合の勝敗を気にすることなく、ピッチでは 100%の力を出し切ることにこだわってプレーしてもらいたいと思っています。君たち全員の顔と名前が一致するようになるにはしばらくかかるかもしれませんが、まずは元気よく「こんにちは！！」の挨拶からはじめましょう。グラウンドで会える日を楽しみにしています。

(鈴木 章弘)

小 4

【試合には勝ちにいく！】

4年生も引き続き担当させていただけることになりましたので、よろしく申し上げます。さて、4年生になるといきなり公式戦が始まります。この

カテゴリーの子どもたちにとって初めての春の公式戦となります。以前からかながわクラブの方針として、小学生の低学年・中学年は試合に勝つことをあまり重視せず、子どもたちの成長や特性に合わせて、最適な時期に最大限の効果が得られるような指導を各カテゴリーに行ってきました。もちろんこの方針がぶれることはありません。

しかし、今回は(?)勝ちにいきます。これまでも試合の際には、決して最初から「負けてもいい」という気持ちで臨んだことはありません。ただ、試合には、普段練習してきたことがどれくらい発揮できるのかという視点で臨んでいます。そのために、自然と勝利は二の次的な雰囲気。指導者の言動に色濃く出てしまい、とすると子どもたちには「負けてもいいよ」というメッセージとして伝わってしまっているような危惧を覚えました。そのことで最初から子どもたちの意識の中に「負のイメージ」が出来上がり、戦う前から精神的に遅れをとっているように思っています。

ですから、これからは試合には勝つのだという気持ちで臨むということを明確にメッセージとして子どもたちに伝えたいと思っています。これは勝つためには手段を選ばないということではありませんし、勝つことだけが価値のあることだということでは、決してありません。例えば、気持ちの強い子、体の大きな子、強いキックが蹴れる子、コーチの指示にきちんと従える子だけを選びすぎてチーム編成をすれば、おそらく、そこそこの結果は残せることでしょう。しかし、それでは子どもたちの将来につながりません。かながわクラブの基本コンセプトから逸脱しないように、チームの全員を試合に出すか、選抜したチームを作らないか、ある程度の制約の中で最大限の努力をして勝利を目指すということになると思います。

この年代の子どもたちは限りない可能性と能力を秘めています。そして、様々な経験から多くのものを学ぶことができます。サッカーを始めて数年間で生じた現時点でのサッカーの上手下手はあまり意味のないことです。ですから、春の公式戦には在籍の31名(休部2名を含む)を均等に2チームに分けて臨みます。そしてチームの全員に試合出場のチャンスを与えます。それぞれのチームで個人個人が最大限に努力をして、その結果が勝利につながれば最高です。

【機会均等と質的平等】

普段の練習で身につけた技術が、緊張感による多少のプレッシャーとグラウンドを取り巻く大人たちの独特な雰囲気も加わった試合場で、ユニフォームの色の違う相手との関係の中でどれくらい発揮できるのかをチェックする機会はこの子にも与えなければなりません。

そこで、かながわクラブでは、小学生の低学年・中学年の試合においては、参加した選手は必ず試合に出場させることにしています(機会の均等)。ただし、その際に、出場時間までを厳密に、皆が平等に〇分ずつということはありません。

「心・技・体」ということばがありますが、今の段階でも、子どもたちの技術(技)、意欲(心)、体力(体)には明らかに差があります。そうした差を考慮しつつ、多少の調整を加えながら、試合への出場時間を決めることが重要です(質的平等)。特に公式戦では、気後れしている子、技術が伴わない子が無理やり試合に出されたことで得られるものは皆無です。そのことでサッカーに対する恐怖心や嫌悪感が生まれることのほうがむしろ恐ろしいことなのです。極論すれば、心・技・体を含めた力が著しく異なる環境に子どもを放り込むことは、三輪車でF1のレースに参加させることと同じくらいの危険性をはらんでいることとなります。何よりも、嫌な思い出や怪我をすることなどが、不幸にもその後の子どもたちとサッカーとの繋がりを絶つことになりかねません。

【サッカーができる喜びを全力で表そう!】

「勝ちに行く」という第一目標には、与えられたチームの中で個人個人が最大限の努力をして、勝利を目指したかという視点が欠かせません。決して試合の勝ち負けだけで子どもたちを評価しないでください。勝っても負けても自分のなすべきことを最大限やり遂げることができたかどうか大切です。負けたときには他のチームメイトの責任にし、勝ったときには自分の手柄にするということでは困ります。

キングカズこと三浦知良選手がその著書「やめないよ」(新潮新書-新潮社)の中で、一試合、一試合に集中してプレーをしている。勝ち負けに関係なく試合が終わると、自分に何が足りなかったのかを考え、また練習に励み、次の試合に臨むようにしているという趣旨の記述がありました。また、44歳になってまだ現役を続けなが

ら、サッカーを楽しんでいるとも言っています。カズのような一流のプレイヤーになれるかどうかは小学生年代にきちんとサッカーの楽しさを感じられるかどうかにかかっています。

春の公式戦に臨んでは、ルールを守り、与えられたチームで最大限の努力をしつつ勝利を目指しているかという視点で子どもたちを見守っていただければと思います。

保護者の方々に、1年前ぐらいから試合の際には「応援について」のお願いをしてきました。お蔭さまで子どもたちは試合に臨んでは、ミスを恐れて萎縮することなく伸び伸びとプレーすることができています。今後とも、自分の子だけでなく自分のチームの他の子どもたちと相手のチームの子どもたち全員を応援していただければと思います。具体的には、「うまくできたら褒める。ミスしたら励ます。」というかながわクラブの基本的なスタンスをお願いします。

また、審判資格をお持ちのお父様方には、いつものように審判のお手伝いをお願いすることになると思います。ご協力のほど宜しくお願いします。

最後になりましたが、東日本大震災でサッカーどころではない状況にある人たちがたくさんいます。幸い私たちはサッカーができる環境にあります。こんなときだからこそ、私たち全員が、この時期にサッカーができる喜びを、相手チームの選手、審判、幹事チームの人たち全員に対して、尊敬と感謝の気持ちとともに表わさなければなりません。それは何度も言いますが、与えられたチームの中で、ルールを守りながら、一人一人が最大限の努力をしつつ勝利を目指すということに他なりません。(佐藤 敏明)

小 3

【震災について】

今回の東北大震災にて被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます

このような甚大な被害がでる災害が身近で起こり、ご家族、ご親族が被災された方はなおのことかと思われませんが、ものすごく心が痛みました。そして、いろいろ考えさせられる日々が続きました。仲間の大切さ(サッカーだけでなく)であったり、普段は気付かない些細なことが幸せだということに気付かされたり、自分自身「生かされている」と感じ、そのために何かしなくてはと思ったり……。そうした中、やはり些細なことでも自分で出来ることをやろうという気持ちになり、

壮年サッカーを楽しんでいます。Papasメンバーにはメールリストからご案内します。

【相乗りの意義と必要性】

PapasとりわけRec&Compでは、横浜市の試合会場への往復で相乗りを行っています。これは、①試合会場で駐車台数の制限ある場合は当然、②移動コストの軽減、③渋滞など不測の事態にも複数で対応可能などの実利的なメリットの他にも、往復の車内での会話で試合を語って親睦を深めています。集合場所は、駅前で車が停めやすくトイレも駐輪場もあることから東白楽駅にしています。ガソリン代、高速代をみんなで分割して負担し、車を提供した方には感謝の気持ちを表しています。こうして組織的な相乗りを行うことにより、初めて参加する方も気後れすることなく、相乗りに加わって親睦を深めていけます。「往復に寄るところがある」、「二輪で行く」など都合があって相乗りに参加できないのは当然ですが、できるだけ都合を付けて、車を出せる方は積極的にご提供いただき、東白楽経由で、試合の前後も相乗りで仲良く楽しく往復しましょう。

【出欠確認の期限を守って！】

Papasでは原則として試合日の3日前(多くは木曜日 20時)を締切として出欠確認を行っています。しかし、締切を守っていただけない方が少なからずおられます。お仕事の都合でなかなか参加不参加を3日前の木曜日までには決めきれないという事情も十分理解できます。そうであるならば、ぜひ確認メールが来たらずぐに「未定」だが「金曜日の何時には返信する」というメールを出していただけないでしょうか。期限を守らない方の多くが何の返信もないまま、期限を過ぎていきます。サッカーは団体競技です。チームメイトが揃ってこそその試合です。出欠の意思表示はプレーヤーとして最低限の義務だと思いますがいかがでしょうか。なお、未定で返信されるときは、決定の時期とともに、参加の場合の直行、相乗り、車提供などについてもお知らせくださると大変助かります。どうぞよろしくお願ひします。(茅野 英一)

ヨーガ

【震災】

突然の震災で、さまざまな影響が出ています。被害に会われた皆様に、こころよりお悔やみを申し上げます。私も少なからず影響

を受けました。一時は帰宅困難者となりましたが、命に別状なかったので問題ないです。被災者の方々のことを思えばこれくらいなんともありません。ヨーガクラスが開催できなくなったために、自宅にいる時間が増えました。ついつい見てしまうテレビでは、災害の悲惨さが刻々と伝えられています。どんどん気持ちが落ち込んでいきます。これはいけません。「今、できることをやらなきゃ。」と思いました。そうです。この時間を使って、スポーツファーマシストの勉強をすれば良いのです。これが、こんな地震のときに「何の役に立つのか。」と言われたら、「何の役にも立ちません。」としか返せないけれど、とにかく、勉強することにしました。集中して資料に向かっていると、少し気持ちがまぎれるようにも思っています。そして、少しでも、「明日」に向けて、「今日」を生きることができているようで、前向きな気持ちになります。インターネットでの試験も無事に受けることができました。登録手続きを済ませて、証明書が届くのを待つことにします。「スポーツ」と「薬学」両方の知識を生かしていけるようになりたいです。

なかなか再開できずにいた、ヨーガのクラスもやっと実施できそうです。クラスの振替え等でいろいろとご迷惑をおかけし申し訳ありません。

今年度も暖かなご理解とご協力をありがとうございます。来年度もどうぞよろしくお願ひいたします。(伊藤 玲子)